

主催

平成28年度厚生労働科学研究費補助金

(障害者政策総合研究事業(身体・知的等障害分野))

「意思疎通が困難な者に対する情報保障の効果的な支援手法に関する研究」

(H28-身体・知的一般-009) 研究代表者:橋 とも子

シンポジウムレポート

意思疎通支援の架け橋づくり

～多様なコミュニケーション障害への支援方法を探る～

情報アクセシビリティって
なんだろう



意思疎通支援ってなに？

平成 28 年 12 月 1 日、星陵会館ホール（東京都千代田区）にて公開シンポジウム「意思疎通支援の架け橋づくり～多様なコミュニケーション障害への支援方法を探る～」を開催致しました。

「誰もが安心して生活できる環境づくり」のために、「意思疎通」や「コミュニケーション」に関して、どのような種類の困難や支援方法があるのか、「知る」ということから、始めてみませんか？

国立保健医療科学院
研究情報支援研究センター
上席主任研究官
橋 とも子





情報アクセシビリティってなに？

情報アクセシビリティとは、
年齢や障害の有無に関係なく、
誰でも必要とする情報に簡単にたどり着け、
利用できることをいいます。

障害者基本法に基づいて政府が策定した第3次障害者基本計画（計画期間：平成25（2013）年度～29（2017）年度）では、障害者基本法改正、障害者差別解消法の制定（平成25年）等を踏まえ、「アクセシビリティの向上」が、各分野に共通する横断的視点の1つとして挙げられています。さらに分野別施策では、『『6. 情報アクセシビリティ』における、放送・通信等のアクセシビリティの向上や意思疎通支援の充実』等の基本的方向が、示されています。

情報アクセシビリティの向上 意思疎通に困難を抱える方の 支援できる「地域づくり」に

磁気ループエリア

磁気ループ対応機器のご利用で会場内の音がクリアに聞こえます



車椅子エリア

ALS などの方も介助者と
一緒に参加できるエリアを
確保しました



は、
の**自立と社会参加**を
つな갑니다

手話通訳 1

演者の発言を、手話で
会場の聴覚障害者に
伝えます



手話通訳 2

聴覚障害を有する演者の手話を、
口頭で会場に伝えます

手話通訳 3

会場の発言を、聴覚障害を有する
演者に手話で伝えます



要約筆記

会場の発言内容を要約して
右側のスクリーンに
出します



5題の基調講演に続いて、 ディスカッションを行いました

東日本大震災時に
広域搬送を行った
患者のその後の療養状況

今井 尚志

医療法人徳洲会仙台徳洲会病院
ALS ケアセンター長

知的障害者への情報保障・
コミュニケーション支援

打浪 文子

淑徳大学短期大学部
こども学科 准教授

発達障害と
コミュニケーション支援

大塚 晃

上智大学総合人間科学部
社会福祉学科 教授



重度身体障害者(ALS、
筋ジストロフィーなど)の
コミュニケーション支援の
取り組み

口文字法、透明文字盤、
メカニカルスイッチおよび
サイバニックスイッチまで

中島 孝

独立行政法人国立病院機構新潟病院
副院長 (神経内科)



聴覚障害と
コミュニケーション支援

早瀬 久美

昭和大学病院薬局
薬剤師



シンポジウムでは、
ALS（筋萎縮性側索硬化症）等の難病や、災害時の対応、
聴覚障害、知的障害、発達障害を中心に、
多様なコミュニケーション障害への支援方法について
演者全員と会場の皆さんで共に考えました。

主 催

平成28年度厚生労働科学研究費補助金

(障害者政策総合研究事業 (身体・知的等障害分野))

〔意思疎通が困難な者に対する情報保障の効果的な支援手法に関する研究〕

(H28 - 身体・知的 - 一般 - 009)

研究代表者

橘 とも子 (国立保健医療科学院 研究情報支援研究センター 上席主任研究官)

研究分担者

水島 洋 (国立保健医療科学院 研究情報支援研究センター 上席主任研究官)

佐藤 洋子 (国立保健医療科学院 研究情報支援研究センター 研究員)

中島 孝 (独立行政法人国立病院機構新潟病院 副院長)

今井 尚志 (医療法人徳洲会仙台徳洲会病院 ALSセンター長)

問い合わせ先

〒351-0197 埼玉県和光市南2-3-6

国立保健医療科学院 研究情報支援研究センター内

FAX: 048-458-6197 E-mail: ishisotsu@niph.go.jp

<http://www.niph.go.jp/topics/sympo1201.htm>

